

小美玉市の歴史を知ろう⑥

羽黒古墳

はぐろこふん

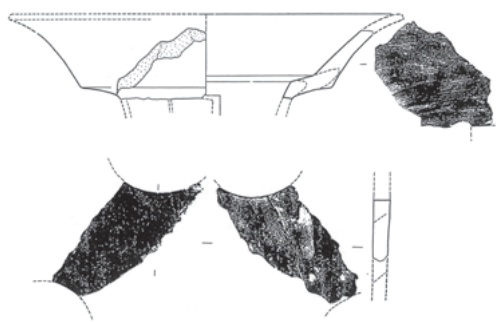
古墳と言えば、玉里地区が有名ですが、園部川をさかのぼり、美野里の竹原地区に入ると、突如として六十mに近い前方後円墳が現れます。美野里地区では最大規模を有する前方後円墳、羽黒古墳（はぐろこふん）です。

前方部と呼ばれる部分が細長く後円部に比べて高さが低い形状をしているのが特徴で、古墳時代前期（四世紀）の典型的な前方後円墳です。

四世紀後半に築造された古墳と考えられ、前に紹介した玉里の権現平二号墳より約半世紀後に築造されたものです。



羽黒古墳の全景



羽黒古墳出土の古墳時代前期埴輪

この羽黒古墳は、測量調査が行われたのですが、詳細は分かっているのだけですが、小美玉市の歴史を知りたいので、大変重要な古墳であります。

一つは、壺形、器台形と考えられる初期の埴輪が採集されていることです。実は四世紀後半という時期、それほど埴輪が大量に生産されることなく、ある一定レベルの首長の墓じゃないと、埴輪が置かれませんか。つまり、埴輪が採集されているということから、羽黒古墳に葬られた首長が、ある程度広域を支配する（園部川流域ぐらいの範囲でしょうか）、古墳時代前期

（四世紀）の有力首長であることが分かるのです。

もう一つは、この古墳が所在している立地です。羽黒古墳は園部川河口から7kmほどさかのぼった所にあります。つまり、比較的内陸の地にあるわけですね。

実は、この時期の大形古墳は内陸部にあるものが比較的多いです。これは、何を意味するのでしょうか？

その解釈の一つとして耕地、とりわけ水田の開発が、内陸部を中心に行なわれていったことが考えられます。内陸の低地は、河口部や海浜部に比べると、洪水などの自然災害がそれほど多くなく、しかも、灌漑設備なども作りやすい地であったと考えられているのです。

古墳時代前期は、南関東や東海、畿内などの先進地から人が移動し、そうした人達から先進的な技術が一気に入



竹原小学校遺跡出土埴輪

り、耕地開発が進んだ時期と考えられています。ち早く、水田開発が進んでいったことが、この羽黒古墳の存在から分かるのです。

さて、最後にもう一つ。羽黒古墳に關係する貴重な発掘調査の成果をご紹介します。竹原小学校の一角で、昨年発掘調査が行われた際、古墳時代前期の竪穴式住居の跡から、器台形と思われる埴輪片が出土しました。この遺跡（竹原小学校遺跡）は、羽黒古墳から約三〇〇m離れた集落遺跡ですが、ここで羽黒古墳に置かれる埴輪を製作していたか、或いは、羽黒古墳に葬られた首長のいた集落が竹原小学校遺跡である可能性が高いのです。

大変小規模な発掘調査であるため、情報が少なく、それを断定するには至りませんが、とても興味深い成果が上がりました。

羽黒古墳は、市指定史跡であり、現在公園として整備されています。一度、足を運んで遙か古代の、有力首長に想像を巡らしてみるのがいいかもしれません。尚、羽黒古墳採集および竹原小学校遺跡出土の埴輪は、小美玉市玉里史料館にて保管されています。

〈次回の掲載は7月号です〉

【小美玉市教育委員会
生涯学習課 ☎26-9111】